

「悠久の時の流れ」

千年も歴史がある日本の伝統音楽を引き継いで現代に伝えていきたい。今年は四季をテーマに様々な邦楽で春夏秋冬を表現し演奏します。是非お越しくださいませ。

▼山田流箏曲「萩三番叟」 はぎさんぼそう 平成元年／四代萩岡松韻作曲

三番叟は農耕を主としたわが国で、五穀豊穡と国土安穩を祈念する田の神を祀る儀式が芸能化したもので、年の始めや舞台披露、大切な一日の芸能上演のはじめに清祇いと祝福の願いをこめて演じられるようになりました。

この曲は、めでたい狂言の三番叟をふまえて「おおさえ おさえ よろこびありや」をはじめに置き、年のはじめの春の七草と曲の後半に出てくる秋の七草が一つの対となっております。そして、四季を通じて親しい松原の「松韻」をおごそかにうたったあと、「萩と萩とはいずれ露やら嵐やら、待つ夜の袖はいずれ露やら涙やら」と、音頭風の小唄にくだけつつ、「栄えむ萩や三番叟、千秋万歳と舞いおさむ」と結んでいます。

(山田流萩岡派「歌傳抄」、萩岡派楽譜「萩三番叟」解説より抜粋)

▼日本舞踊「四季山姥」 しきのやまばば

作詞は南部侯佐竹利済といわれるが、一説に毛利侯とも、某屋敷住いの女中ともいわれています。

作曲は十一世杵屋六左衛門。1862年(文久2)3月7日、江戸・麻布南部侯邸で初演されました。初演時の曲名は「新山姥」で素唄でしたが、現在は素唄がついています。元京都九条の里の遊女八重桐が、足柄山中で怪童丸(後の坂田金時)を育てる話、いわゆる「山姥物」の一種であり、山姥が昔の廓勤めを四季の風物とともに思い出すという内容で、劇的な構成をもつ他のジャンルの「山姥物」に比べ、叙情的な作品につくられています。

▼生田流箏曲「琉球民謡による組曲」 りゅうきゅうみんよう ぐみきょく

この曲は琉球の代表的な民謡である安里屋ユンタと八重山地方に古くから伝わる哀愁ある旋律「トバルマ」を素材として作曲された幻想曲風な組曲です。昭和41年宮城喜代子氏が沖縄演奏旅行をされた時うけた感激をもとに、牧野由多可氏に委嘱し作曲されました。沖縄の夏らしく爽やかな海をイメージしながら演奏致します。

▼創作曲「花篝」 はなかがり

桜は春を告げる花として古くから日本人に親しまれてきました。空を埋めつくさんと咲き誇る様子や、すぐに見頃を終え散ってしまう儚さに魅了され、多くの言葉や歌が生み出されています。

この「花篝」はそんな夜桜と花見のために焚かれた篝火が織りなすどこか妖しくも美しい風景を想って作曲しました。4つの楽器が奏でる花景色をお楽しみいただけたら嬉しいです。

▼尺八「失われたとき時」 うしな ときとき

調性感の希薄な無機的な響きを持つ第一章「Prologue」、一章から引き継ぐ無機的な響きと有機的な優しい旋律の対照的な二面をもつ第二章「子守唄」、力強くリズムカルな第三章「宴」の三章からなります。

作曲者である三宅一徳(1963～)は東京藝術大学の学生時代より邦楽器演奏家との繋がりが高く、箏や三味線、そして特に尺八を用いた作品を多く作曲されています。この曲は1998年6月、旧東京音楽学校奏楽堂にて行われた尺八専攻卒業生の演奏会のために委嘱、初演された曲です。

▼長唄「春秋」 はるあき

如連居士作詞、五世杵屋勘五郎作曲で明治36年に発表されました。

春と秋、前後二巻から成る曲で、「桜花の巻は風の曲」「紅葉の巻は雨の曲」と小題目も対句になっているように、春は嵐、秋は時雨と両者を対比させ、その風情を唄った上品な内容で、短い中にも聴かせどころのある充実した作品です。

生涯学習センターまでの案内図



台東区生涯学習センター 〒111-8621 東京都台東区西浅草3-25-16

- 交通
- ◇ JR山手線・京浜東北線「鶯谷駅」南口 徒歩 約15分
 - ◇ 東京メトロ日比谷線「入谷駅」1番出口 徒歩 約8分
 - ◇ つくばエクスプレス「浅草駅」A2出口 徒歩 約6分
 - ◇ 台東区循環バス「めぐりん」「生涯学習センター南」「生涯学習センター北」ともに 徒歩 約3分

囃子が誘う、
夢幻の世界

この国の佳き伝統とともに
宮本卯之助

株式会社 宮本卯之助商店 創業文久元年 太鼓・神輿・祭礼具 製造販売

西浅草店 東京都台東区西浅草2-1-1 TEL 03-3844-2141 FAX 03-3842-6730
www.miyamoto-unosuke.co.jp

雷門通り 尾張屋

そば處

本店
TEL (3845) 4500

支店
TEL (3841) 8780
<http://r.gnavi.co.jp/g615000/>

やきとり たけむら

昭和三十八年創業

〒104-0004 東京都台東区下谷1-11-7 入谷鬼子母神並び
TEL/FAX.03-3841-2450